

平成 29 年度第 1 回公立大学法人宮城大学経営審議会議事録

日 時	平成29年6月28日（水）午前10時00分から午前12時10分まで
場 所	宮城大学大和キャンパス本部棟 4 階 応接会議室
出 席 者	阿部博之委員、大山健太郎委員、今野敦之委員、櫻井武寛委員、佃委員、堀切川一男委員、佐々木昭男委員、川上伸昭委員、犬飼章委員、西城正志委員、武田淳子委員、高橋芳行委員、徳永幸之理事、岩堀惠祐理事
事 務 部	小林部長、千葉次長、小松企画財務課長、加茂学務課長、庄司太白事務室長、進藤総務グループリーダー、齋藤企画予算グループリーダー、齊藤出納グループリーダー、武田入試グループリーダー、名取主査、高野主査
議 事 概 要	<p>1 開会（午前 10 時 00 分）</p> <p>2 挨拶 (川上理事長) 御多用の中、お集まりいただき感謝する。 昨年度の本経営審議会での推薦を受けて、本年 4 月より理事長兼学長に就任させていただいた。改めて感謝申し上げたい。 就任にあたり、まずは大学の体制を変えさせていただいた。 これまで本学では、法人としてのマネジメントと学務のマネジメント体制を別としていた。法人経営と学務のマネジメントを同じにするかしないかということについては色々な考え方があるが、私は別にすることはないと考えた。従って、理事兼副学長という兼務の形での役員を増やした。 また、就任して、最初にやるべきと考えたことは、前理事長が取り組んだ開学以来の最大の改革である大学改革をしっかりとスタートさせ、完成の道を作っていくことである。これまで書類上のものであった大学改革を教員一人ひとりがしっかりとその意義を認めて、それに沿って学生に対応していくことが必要である。 それと同時に開学から 20 年が経過したため、ソフト・ハードの両面で陳腐化が進んでいるので、手を入れて新しい形で学生を受け入れられるようにしていかなければならない。 前職の文部科学省時代に、これからはロボットや AI といったものがどんどん社会に入ってきて、社会は急激に変化をしていくと想定し、科学技術基本計画の中で「Society 5.0」というものを提言した。このような変革を続けていく社会に対応できるよう、本学の学生をどのように育っていくのか、ということを早急に考えていきたいと思っている。 微力ではあるが、理事長兼学長としてしっかり取り組んでいきたいと考えているので、経営審議会の委員の皆様には引き続きご指導を賜りたい。</p> <p>3 委嘱状交付 ・外部委員 7 名に対し、川上理事長より委嘱状を交付した。</p>

	<p>4 議事録署名人の選任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川上議長から、前回会議の議事録について出席者に確認を求めた後、大山委員及び武田委員が議事録署名人に指名された。</li> </ul>
	<p>5 現状報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議に先立って、資料1から資料4に基づき大学の現状について法人側から報告があった。</li> </ul> <p>【資料1】「大学の沿革と学生数等について」（説明：犬飼委員）</p> <p>【資料2】「教育の状況について」（説明：徳永理事）</p> <p>【資料3】「研究の状況について」（説明：岩堀理事）</p> <p>【資料4】「地域貢献の状況について」（説明：武田委員）</p>
	<p>6 審議事項</p> <p>(1) 平成28年度業務実績報告書（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度の業務実績報告書（案）について、犬飼委員が内容の説明を行った。</li> </ul> <p>【議案1】「平成28年度業務実績報告書（案）について」</p> <p style="text-align: right;">(説明：犬飼委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明の中で、今回の実績報告書については、PDCAサイクルを回す観点から、これが「大学の実態を表したもの」になるよう「達成できた部分だけではなく、課題があればそれも書き込む」としたことや、評定にあたっては「中期目標・中期計画の達成を視野に入れて」評価を行ったことが述べられた。</li> <li>・その結果、今回の評定結果は前年度のものと比較するとIV（特筆すべき優れた実績・成果があった）の評定が減っているが、これは評価の観点を変えたためであり、法人としての業務が停滞しているわけではない旨の説明がなされた。</li> <li>・説明終了後、質疑応答が行われた。</li> </ul> <p>（堀切川委員）地域貢献についてだが、地域密着型の大学なので色々な自治体の委員を兼業でやられている教員がいると思う。そのような部分も地域貢献の指標となると思う。</p> <p>（川上議長）確かにその通りだと思う。実際、自治体の委員を務めている教員は多い。ただし、委員に留まっているだけではなく、もっと具体的に共同研究やプロジェクトに結びつくように発展させていかなければならぬと考えている。</p> <p>（堀切川委員）外部資金を増やすのはなかなか難しいが、例えば地域の比較的大きな企業の寄附講座などを設けて、企業と一緒に教育研究を行っていくような方法は有効かもしれない。</p>

(川上議長) 産学連携という言葉がまだこの大学では根付いていないと思う。特に企業との連携はまだ不十分なので、自治体だけではなく企業との関係性を深めていけるようにしたい。

(大山委員) これまでの経営審議会ではPlanとDoばかりの報告があつて、宮城大学が何のためにあって、何をすべきなのかという議論ができていなかつた。それはデータがなくCheckができなかつたためだ。私の会社ではCAPといって、Check・Action・Planの順番で、まずはCheckが最も大事であるという考え方で動いている。今回の説明の中で、「企業からの卒業生に対する評価」というものが示された。前々から「真面目で理解度が高い学生」に育っているということを感じてはいたが、本来、何を大学で学ぶのかということを考えたときには、やはり論理的な思考能力と、その思考能力を活かしたプレゼン能力を高めることであると思う。そのためには大学改革を行う必要があったのだろう。厳しい言い方をすれば、学生の問題ではなく、教員の問題である。これが宮城大学の一番の課題である。県としても、県内の優秀な若者が学ぶ場を作りたいということで宮城大学を設立したのだと思うので、ここで学んだ知識を活かして、地元の企業で活躍してもらうことを期待するとすれば、このあたりは真剣に議論する必要がある。

(川上議長) 論理的思考がこれだけ低いというのはやはり問題がある。プレゼン能力の改善については、今回の大学改革の中でアクティブラーニングや地域フィールドワークで現場に入っていくことで身につく部分もあるかとは思うが、論理的な思考能力という部分については、基盤教育の中では幾分か育てられるが、事業構想や食産業という時代や課題に応じた学問を進めていく中で論理的な思考を高めていく方法は、もう一段考えなければならない問題だと思う。

(徳永理事) 大山委員のご指摘の点については、まさにそのとおりであり、現場を預かる身としてはお恥ずかしい部分である。事業構想学部については、3年になると学校に来なくなる学生が増えるという現状もあり、これを変えるためにもどうしたらよいかを考えていかなければならない。

(大山委員) 学校で学んでいることと、地元の企業が求めていることの間にギャップがあると感じる。従って、企業の職員採用にあたっては「大学で何を学んだか」ということではなく、「人間力」で採用をせざるを得ない。これは宮城大学だけではなく、文系全般に言える。もう少し、地元の企業のことを研究する、ということを学生と教員がやっていくべきなのではないか。企業環境の変化は激しい。申し訳ないが、教員の皆さんに持っている知識や情報というのはだいぶ古い中身になっていることが多い。ここでそれが出てくる。過去の知識ではなく、現状を知るべきであると思う。

(櫻井委員) 地元企業としても努力しなければならない部分もあると思う。評価についてだが、今回「IV」が減っているが、県等に説明するとき

には、経営審議会では今回の評価手法を高く評価していた、と付け加えて報告していただきたい。

(佃委員) 看護についても、まったく同じだと感じている。看護の現場でもこれから地域包括ケアが進んでいく中では、洞察力・人間力が問われる状況になってくる。医療だけではなく、生活の質ということを考えられることが看護職にとって最も大事になってくる。

(川上議長) そこは今回の改革の眼目であると思っている。基盤教育というものは全学共通である。看護は看護の専門だけということではなく、いろいろな人間と交わることで、人間力を鍛えた上で看護の世界に入っていくということができるのではないか、と思っている。入学してすぐに、1泊2日で3学群混ぜてチーム編成をして過ごす機会も作っており、そのような効果を期待しながら進めていきたい。

(今野委員) 県立大学として、県の税金を使って教育をした学生が県外に出ていくというのは、自分としては堪らない気持ちである。中小企業の立場で言えば、学生に対して県内にどんな企業があるのかということをアピールしきれていないというのも事実ではある。大学の教育の中に、県内の企業の実態を知らしめる場がたくさんあると良いと思う。そうすることで、学生の選択肢が増えてくれればありがたい。我々としてもできることはしていきたい。

(川上議長) 県内就職は4割に留まっている。県立大学としては、なるべく県内に就職してもらう、ということは考えなければならないことだと思っている。これも大学改革の中では、地域フィールドワークを実施して早い段階から地域の課題に目を向けさせるということはやっていきたいと思っている。また、先ほどもお話ししたが、教員が自治体の委員に留まつていては、教員だけの関与で終わってしまうが、これを共同研究やプロジェクトに発展させることで学生の関与も高まっていくと思うので、他機関との関係を深めて学生を巻き込んでいけるように進めていきたい。県内企業については、キャリア開発センターで説明会ができるような体制を取っており、きめ細やかにやっていきたいと思っている。

(佐々木委員) 震災直後から大学が復興現場に関わってきたと思う。多くの学生や教員が関わってきたと思うが、これまでの取り組みをどのように評価されているかという話を聞きしたい。もうひとつは、自治体が大学や教員に対してどのような関わり方を求めているかという話だが、2つほどあると考えている。一つは、教員のもつ知的資源を自治体で活用したい、ということと、もう一つは学生の若い感性を活かしたいということである。教員が持つ資源の中には、企業との関わりという部分を自治体としては期待する部分もある。自治体と大学と企業と住民という枠組みの中で、いろんな助成金などを取り込みやすくなる部分もある。これらを進めるのは地域連携センターだと思うが、そのあたりのお話をうかがいたい。

(川上議長) これまで震災復興に関わってくことができたということに関しては、経済同友会の資金などをいただき、これを活用してきたという事実もある。今後はこのような資金は望めなくなってくると思う。これはどうやって引き継いでいくのか、というのは課題である。その意味からすると、現在は地域連携センターが独自の事業として自治体からの様々な事業を受託しているが、これに対して教育研究資源をもっと活用しなければいけないと感じている。地域連携センターを通じて教員・学生が地域に入っていくための強化策を講じていかなければならない。これを進めていくことで、震災復興関連の資金が無くなつたあとも、地域とのお付き合いを継続していく、という方向性を模索していきたい。

#### ○議案1について異議なく承認された

##### (2) 平成28年度決算（案）について

- 平成28年度の決算（案）案について、西城委員から内容の説明を行った。  
【議案2】「平成28年度決算（案）について」（説明：西城委員）
- 説明終了後、質疑応答が行われた。

(阿部委員) 宮城大学の全体的な立ち位置を考えると、まず学生と教職員を合わせた人数が約2,100人である。このような規模の事業所を宮城県内に作ろうとしたら大変なことである。この点は私もPRしていきたい。東北6県以外から来ている学生が若干減っているという説明があったが、これを増やしていくことが、地道ではあるが東北の人口減少への重要な対策になると思う。それから運営費交付金が58%というのは、他同規模の大学と比べてどうなのか、ということを一度検討してみた方が良いと思う。また、大山委員から指摘があったが、日本の大学においては「人間力の育成」というのは、非常に難しい問題である。日本は「公平性」を追求しすぎる社会である。「公平性」は一見大事ではあるが、これは人間性を無視することに繋がりかねない。アメリカの大学は昔からペーパーテストがいくら良くても他がダメなら取らない。私は、このあたりをもう少し各大学が独自にやっても良いのではないかと思っている。今回の経営審議会については、資料もわかりやすく全体として良くなってきたという印象を持っているので、今後とも努力いただきたい。

(川上議長) 宮城大学は宮城県のトップ大学ではないので、成績だけが優秀な学生を取る必要はないと思っている。逆にユニークな学生を取って育てるこことを頑張る方向で考えていきたいと思っている。

(大山委員) そもそも事業構想学部を作ったときの発想はそうであった。

	<p>○議案2について異議なく承認された</p> <p>7 報告事項</p> <p>(1) 宮城大学創立20周年・創基65周年記念事業について ・宮城大学は平成9年度に創立し、今年度で20周年を迎えたことから記念式典等の事業を行う旨の報告を川上議長が行った。 【報告資料1】「宮城大学創立20周年・創基65周年記念事業について」 (説明：川上議長)</p> <p>(2) 設置計画履行状況報告書（アフターケア）の提出について ・本年4月からの学群・学類の設置認可に対して、毎年、履行状況を報告することとなっており、5月8日付で文部科学省あてに報告書を提出した旨の報告を川上議長が行った。 【報告資料2】「設置計画履行状況報告書（アフターケア）の提出について」 (説明：川上議長)</p> <p>6 その他 (川上議長) 本日ご審議いただいた業務実績報告書及び決算については、この後の理事会で決定の後に県に提出をさせていただく。まだ大学の現場に就いたばかりでわからないこともあるので、引き続き御指導をいただきたいと思っている。何卒、よろしくお願いしたい。</p> <p>(午前12時10分 閉会)</p>
--	---

この議事録は、平成29年度第1回公立大学法人宮城大学経営審議会の議事録である。

公立大学法人宮城大学

経営審議会議長

川上伸昭



議事録署名委員

大山健左ゆ



議事録署名委員

武田淳子

